

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101374		
法人名	医療法人 誠仁会 吉徳医院		
事業所名	ぐる一ふほ一む木一		
所在地	滋賀県大津市里五丁目2番60号		
自己評価作成日	令和3年 10月 3日	評価結果市町村受理日	令和4年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山7丁目8番138号		
訪問調査日	11月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者お一人お一人が安心して安全な日常生活を過ごして頂けるよう支援を行っている。介護度の違いや認知症状等により違いはあるが、個々の残存能力の維持に努めている。コロナの関係もあり、外出や面会に制限があるが、ストレスを抱えこまないよう、できる限りの体操やレクを実施したり、天気の良い日には、庭に出て外気浴や散歩をし気分転換を図っている。職員に於いても、経験年数だけでなく皆が誠実で前向きに取り組めるよう、資格取得や勉強会等でスキルアップできる支援をしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ぐる一ふほむ木一は、同法人の病院、ショートステイ、デイサービスセンターが中庭をはさんで隣接して季節の移り代わりが感じられる樹々の木陰に多くのベンチが配してある。天気の良い日は、外気浴や軽い散歩を楽しめる。またデイサービスやショートステイを利用される方との出会いの場でもあると聞く。開放的なリビングは落ち着いた雰囲気である。「特別なニーズと願望に答えるよう最大に努力する」を根幹に職員は、一人ひとりの思いを汲み取るようにし思いに応えられるよう努めている。利用者に体調変化や低下があってもすぐに対応できる体制があり重度化されても、ぐる一ふほ一む木一で共に過ごせるよう支援に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「特別なニーズと願望に応えるよう最大に努力する」に基づき、地域密着型サービスの意義に添い、日々理念のより深い理解に努め業務にあたっている。	地域密着型サービスの意義をふまえ利用者、一人ひとりのニーズにできる限り応えられるよう職員間で話し合い、家族の協力を得ながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として平成29年度より自治会に加入させて頂いている。可能な限り民生委員様に運営推進会議への参加をお願いしているが、コロナ禍と言う事もあり、地域との交流もできずにいるため実践できていない。	コロナ禍では、事業所の外へ出かけていく機会がほとんどなかったが、以前は、夏祭りの見学や大正琴、フラダンス等のボランティアとの交流があった。	事業所の中庭を利用して地域の方との交流を検討されてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こちらからの発信はできていないが、入所申込時など、質問や不安な事などをお聞きし相談にのらせて頂く事はある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、実際にお会いしての会議ができていないが、文書により取り組み状況等をお知らせしている。	今年度は、書面に事業所の現況報告が主であった。通常は、地域包括支援センター、民生員、自治会代表の参加で情報や意見交換をしていた。	本人・家族も参加しやすいよう、会議案内の検討をされてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	こちらから連絡を取る事はあまりないが、市町村から連絡があれば速やかに対応している。	事業所の現状報告は、文書で行うことが多いが、緊急の相談があればいつでも対応してくれる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所以来、法人全体の共通理念として、身体拘束は原則行わない。玄関の施錠も夜間以外は行わず、入居者様の行動を制約する事なく見守りを徹底している。	身体拘束をしないケアについて、外部研修を受講した職員が、内部で伝達研修を行って確認をしている。行動や言葉での制限など気になることがあれば、管理者や職員間でも注意しあうことが出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各々が自覚を持って業務にあたるのは勿論の事、職員どうしが注意し合えるよう教育している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解や、入居者様の正当な権利の主張ができるよう後見人の方とも情報共有ができるようにしている。また、勉強会等を通して制度の理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には契約書・重要項目・運営規定等について説明し捺印していただいている。また質問等も伺い返答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話時などにご家族様とお話し、その都度意見や要望等を伺い、職員と共有している。	コロナ禍の感染予防のため事業所の窓越しで携帯電話を使用しての面会ではあったが、意見や要望は意識的に伺った。また電話で、利用者の近況報告とともに意見や要望を聞き職員間で共有し反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内での話し合いや全体での話し合いにより、各々の意見や提案を出し合っている。	日頃のミーティングや会議でも意見は言いやすい雰囲気があると職員より聞き取った。管理者は、会議の中で、職員一人ひとりの意見が出るように促している。随時個人面談も始める予定であると聞く。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、リーダーが定期的に職員の努力や日頃の勤務状況などの把握に努めている。ただ、個々の話を聞けていないのが現状であるため、面談などを行っていききたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を積極的に推進、バックアップしている。職員毎の個性を理解し、個々にあった指導方法、その個性を活かせるような助言をするように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大津市南地域の在宅医療を支える研修「チーム洗堰」に参加。ただ、コロナ禍でもあり活動はできなかった。今後活動がある時は可能な限り参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前よりご本人様と面談をし、世間話をしながらもご自身の要望や不安などを聴き、感じ取り安心していただけるよう働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より面談を行い、現在困っている事や不安な事、この先の要望等をじっくり聞き安心していただけるよう働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で聞き取りした中で、必要としている支援は何かを計画作成担当者と話し合いをしている。また、法人他事業所とも連携を図り、ニーズにあったサービス支援が出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんだり片付けたりと、生活の一部を一緒に行うようにし、職員をより身近に感じて頂ける様コミュニケーションを図り、信頼関係の構築ができる環境に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際など、ご本人の近況を伝えるとともに、ご本人とご家族様がゆっくりと話していただける空間や時間を作る様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行く事は難しいが、馴染みの人や場所などのお話を聞いたりするようにしている。	最近は、コロナ禍で自粛となったが、以前は、馴染みの友人が来訪され居室で楽しまれたこともある。体力が低下し、その場所には、行けないが馴染みの人や場所の話を職員と話をする事はある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格でぶつかる事もあるが、中でもどのように関わられるかを探っている。時には職員が中に入り良い関係性が作れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	繋がりは途絶えておらず、ニーズがあれば相談・援助を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの要望は勿論、場合によってはご家族様からの助言にて意向の汲み取りを行っている。出来る限り、ご本人の希望に添った支援ができるよう努力している。	暮らしの中での何気ない動作やつぶやきから何をしたいのか、どんな思いなのかを汲み取るように努め職員間で申し送り検討し本人の思いに添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活に近い形にするため、事前の聞き取りを行い、居室の環境を整えたりこれまでの日課を継続して行える様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日の体調をしっかり把握し、安心して過ごしていただけるよう努めている。業務日誌や申し送りなどを通し、職員間での情報共有をし日々のケアの質の向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月毎の総評、3ヶ月毎のモニタリングを実施。また、長期目標の更新時は担当者会議を実施し、アセスメント・ケアプランの作成を行い、ニーズに沿ったプランを作成している。	日頃の支援経過をケア担当者がまとめ介護支援専門員が本人・家族の思いや意見を聞いて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケース記録に記入するとともに、口頭でも職員間で情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のケースにとらわれがちになるが、個々のニーズにできる限り対応できるよう、職員と話し合い、柔軟に実践できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ地域資源の活用までは至っていないのが現状だが、今後更に地域の方々と連携を持ち協力体制が築ける機会が増える事が望ましいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医である吉徳医院と密に情報共有し、月に1回の定期受診やその他の臨時受診をおこなっている。	外部での受診が必要な場合、協力病院より紹介状を書いてもらい基本的には、家族送迎にて受診してもらっている。診療情報は関係機関で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化は日々報告し、相談も含め欠かさず連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に医療機関に状況を確認し、当事業所に戻られてからの支援方法を考えている。また、医療機関にもアドバイスを求めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携に伴い、重症化した場合における対応と看取りに関する指針を提示し説明している。重症化した際には、医師とご家族様、職員で話し合いの場を設け、今後の対応について協議している。	重度化した場合本人・家族、医療関係者、事業所職員と話し合い、随時意志を確認しながら対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状を踏まえた対応、処置等の周知確認、AEDの使用を含め情報を共有し緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認や誘導方法などの確認と見直しを行っている。今後は、避難訓練も行う周知の徹底を図りたい。	定期的に防火訓練が行われている。近隣の法人との連携体制はできている。非常食・備品のなどの準備があり定期的に見直している。	入居者の特性もふまえた協力体制作りについても運営推進会議で意見交換が出来るといいですね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した環境の提供、目上の方への適切な言葉づかいには常に注意している。そぐわない表現はその都度指導している。	日々のケアの場面で気になることがあれば、都度注意をしている。手本となる先輩職員の話し方を例に挙げ具体的に指導、確認を行っている。今後は、さらにベテランの職員も新人にも改めて振り返る場面を持ちたいと聞き取った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の話の中でも、ご本人が希望を言いやすい、決定しやすいような言葉掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添える様最大の努力を心掛けている。職員のみでは応じきれない要望でも、ご家族様の協力により実践できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用している。また、衣類や化粧品等をご家族様に用意いただき、ご本人の好みや楽しみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の元、厨房にて入居者様の嗜好に合った献立を提供している。また、準備や後片付けなど、その方の能力に応じて行っている。	盛り付けされた食事がワゴンで届き、利用者お手製のランチョンマットの上に配膳される。下膳やランチョンマットを片付けるなど、自然な形で利用者が手伝っていた。利用者の好みや感想は検食者が栄養士に還元してメニューに反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に適した食事量の提供に努めている。いつでも水分補給ができるようお茶を用意している。また、ご本人持ちのスポーツドリンクを冷蔵庫にて保管している。水分量の把握にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを通し、嚥下機能の維持にも努めている。また、8月からは週1回の訪問歯科も再開している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。毎日排泄チェックをし排泄状況を把握すると共に、オムツやパットの必要性やその方に合ったものを使用しているか等を職員間で話合っている。	全員がトイレで排泄され、布ハンズのみの方も数名ある。早めの声掛けにより、失禁を減らし、パットの見直しも、日々のケアの中で気づいたことをもとに職員間で話し合っている。利用者の思いに即して、段階的に進めていく配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の体調を考慮しながら、週3回の乳製品の定期的な摂取をしている。適度な運動や体操をし腸の活動を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限りご本人様が希望される時間帯に入浴して頂けるよう心掛けているが、夕方や夜間に関しては出来ない。	基本的に午後から入浴し、気分が乗らない方については、時間や日にちをずらして入ってもらっている。個々の好みの石鹸やシャンプーを使い、ゆったりと話をしながら入浴を楽しんでいる。浴槽に入れない時にはシャワー浴と足浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムの把握をもとに、その日の状態に応じて休息時間を設けるなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬情報を把握し管理している。副作用についても理解し気を付けるようにしている。薬の変更があった場合などは、全員が理解出来るよう申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	経験、特技、嗜好を活かし継続出来る様支援している。毎食のメニューを書く、日記をつけるなど日課にしておられる方もいる。今後は定期的に外出や外食なども行い気分転換を図る機会を設けたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり行事としての外出は出来ない。個々で美容院へ行きたいなど要望があった時は、状況や感染予防等しっかり話し合いご家族様にも協力していただいた。今後は、希望に添った外出が出来る様態を整えたい。	家に帰りたいという要望に応え、家族の協力のもと外出外泊をされる方もいる。近くのスーパーに買い物に行ったり、紅葉を見に行くなど少しずつ外出の支援が再開されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額をご本人で管理しておられる方もいるが、実質「立て替え」という形で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ユニット毎に1台電話機を設置し、電話が出来る環境を整えている。希望に応じてかけていただいたり、取次をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	閉塞的にならないよう、ゆったりとした共有スペース作りを心掛けている。中庭に面した窓は大きくなっており、天気の良い日でも外をゆっくり眺め気分転換が図れる様になっている。	大きな窓から広い中庭の景色を眺めることができ、明るく開放的な雰囲気がある。和室や音楽室、テレビ視聴の部屋など、目的に応じて使える共有の部屋があり、有効に使っている。落ち着いた色調の調度品や建具が家庭的な雰囲気を感じさせ、利用者がゆったりと過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に使っていただけるようにしている。時にはご家族様とゆっくり会っていただけるようなスペース作りもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人に馴染みのあるものをご家族様の協力のもと揃えていただいたり配置していただき、これまでの生活の延長線上となり安心して過ごして頂けるようにしている。	入口に家族の協力で作った個性的な表札が掲げられ、入居時に家族と話し合ってそろえられた馴染のものに囲まれて、その人らしい個性豊かな居室になっている。入居前に使っていたミシンを持ち込まれ作品を作られる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせて過ごしやすい、動きやすいような環境作りを心がけている。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	○チームで作る介護計画とモニタリング 3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎の短期目標の更新、1年毎の長期目標の更新は行っているが、職員間で意見を出し合ったり話合ったりする事ができていない。又、担当者会議で居室担当者の出席ができていない。	モニタリング時には、職員間で意見を出し合い検討する時間を設ける。 担当者会議には、居室担当者が出席しご家族様へ生活の様子や変化などを報告する。	モニタリングの際には、居室担当者が主になり職員からの意見を収集しケアプランと照らし合わせ、作成担当者へ情報をあげる。今後、コロナの感染状況を見て、事業所での担当者会議が開催ができると判断した時は、ご家族様、作成担当者、居室担当者が会議を行いケアプランの見直しと作成を行う。	12ヶ月
2	2	○事業所と地域とのつきあい コロナ禍ということもあるが、地域の活動に参加できていないのが現状である。地域密着の事業でもあり、入居者様の楽しみや安心のためにも、今後の連携が必要と感じている。	コロナ過で外部との交流が困難な状況を目の当たりにし、どれだけ地域の方々との交流が大事か改めて感じた。今後は地域の催しなど積極的に参加すると同時に、事業所での行事等の参加を依頼するなど日常的な交流ができるよう努める。	自治会住民、民生委員の運営推進会議への参加を再開するとともに、今後は地域の催し等への参加をしたり、事業所の行事等に来て頂く等をして地域との交流は増えていくよう努める。	12ヶ月
3	35	○災害対策 非常時の避難や誘導など、法人や事業所だけの力では不安がある。	万が一の災害時、地域の協力がないと不安が大きいため、日頃より地域の方とのコミュニケーションを図り、協力体制を整えるように努めていきたい。	事業所での避難訓練で避難等の対応力を身に付ける。また、訓練にご家族様や地域の方々にも参加していただけるよう働きかける。地域の防災訓練にも可能な限り参加しお互いに協力できる体制を整えていきたい。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		( ↓該当するものすべてに○印 )	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
			④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
			⑤その他( )
2	自己評価の実施		①自己評価を職員全員が実施した
			②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
			③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
			④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)		①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
			②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
			③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開		①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
			②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
			③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
			④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤その他( )
5	サービス評価の活用		①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
			②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
			③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
			⑤その他( )